

学業には力を入れて当たり前、学業を評価されるのも当たり前

2021年新卒採用における履修履歴活用実態調査結果

このたび履修履歴活用コンソーシアムでは、2021年新卒採用における履修履歴活用実態調査（新卒採用における企業の履修履歴の取得・活用状況調査）を、コンソーシアム加盟企業が運営する就職サイトの会員を対象に本年の6月下旬から7月下旬にかけて実施いたしました。

この調査は2018年新卒採用における調査（2017年実施）からスタートし、4年目となります。その内容を過去の結果との比較を交え、以下ご報告いたします。

なお、本調査では、「履修履歴を活用していた企業名」を尋ねております。名前が挙がった企業も、あわせて公表させていただきます。

2021年新卒採用における履修履歴活用実態調査概要

- 調査実施者：一般社団法人履修履歴活用コンソーシアム
- 実施期間：2020年6月25日～2020年7月31日
- 調査対象：2021年卒業予定の全国大学4年生及び院2年生
- 調査方法：Eメールにてアンケートへの回答を依頼。学生はWeb上のアンケートフォームより入力
- 回答数：1,980名（文系1,096名、理系884名）

学業を重視していると感じた企業、「8割以上」と回答した割合は4年間で5倍以上に

「採用選考において、学業を重視していると感じた企業がどのくらいあったか」という質問をおこなった。

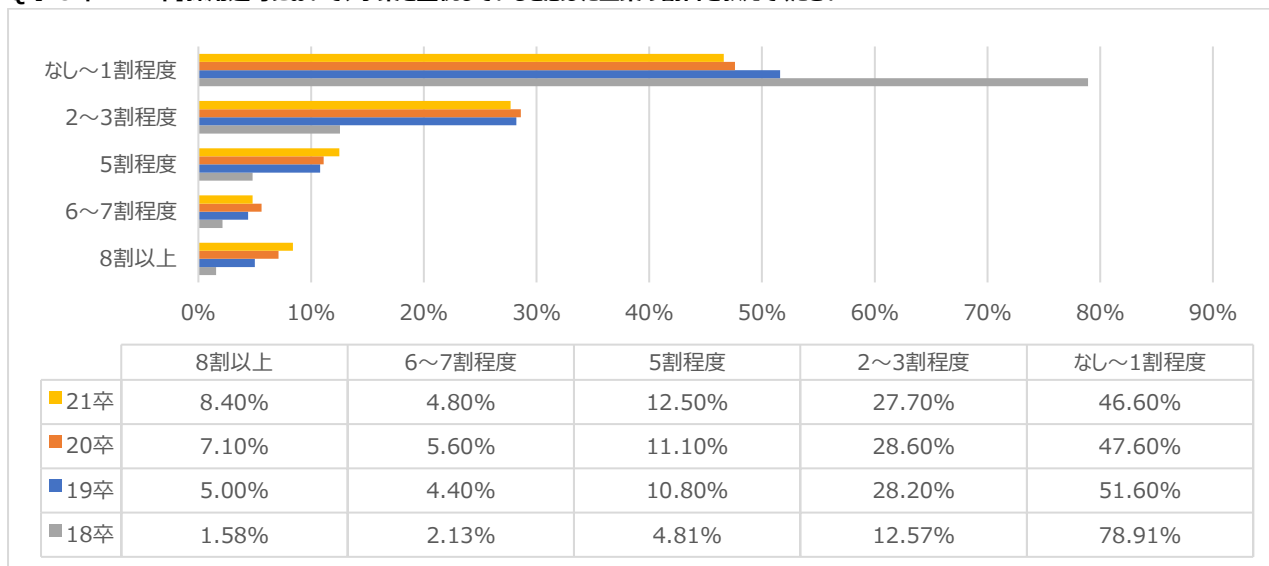
「なし～1割程度」と回答した学生は5割を切った昨年より更に減少し、「8割以上」と回答した学生も過去4年間で一番大きな割合を占めている。また、2018年卒の回答では全体の10%にも満たなかった「5割程度」以上の回答が、2021年卒では25%以上になっている点も見逃せない。過去の調査で年々増加傾向にあると考えていた「選考時に学業を重視する企業」は、2021年卒でも更に増加傾向にあると見ていい。

学業を重視していると感じた理由は、3年続けて「面接で研究・ゼミ以外の履修科目や授業について、具体的に質問されたから」がトップなもの、「選考初期段階で履修履歴（成績証明書等）の提出が求められたから」とほぼ変わらない割合となっている。書面やデータでの「提出」の面でも、面接で行われる「実際の質問」の面でも、学業に関する情報が選考に必要とされていることが分かる。

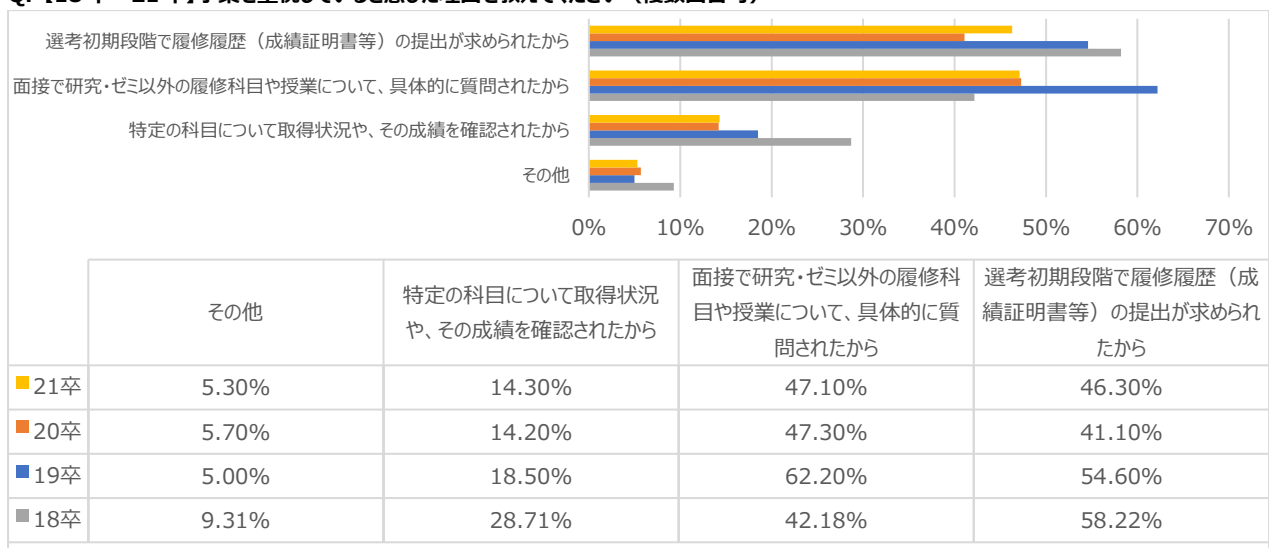
また、学業を重視していると感じなかった理由について、「面接で研究・ゼミについての質問はあったが、それ以外の履修科目や授業について具体的な質問がなかった」の割合が前年より5%ほど上回っている。加えて「選考初期段階で履修履歴の提出を求められたから」も前年より微増していることから、学業についてまったく触れられないことはないが、聞かれ方・提出のタイミング

等で学生側の受け取り方がかなり変わるのではないか、とも推測できる。もしかしたら企業側が想定している学業のウエイトよりも、学生側は軽く受け止めている可能性も考えられる。

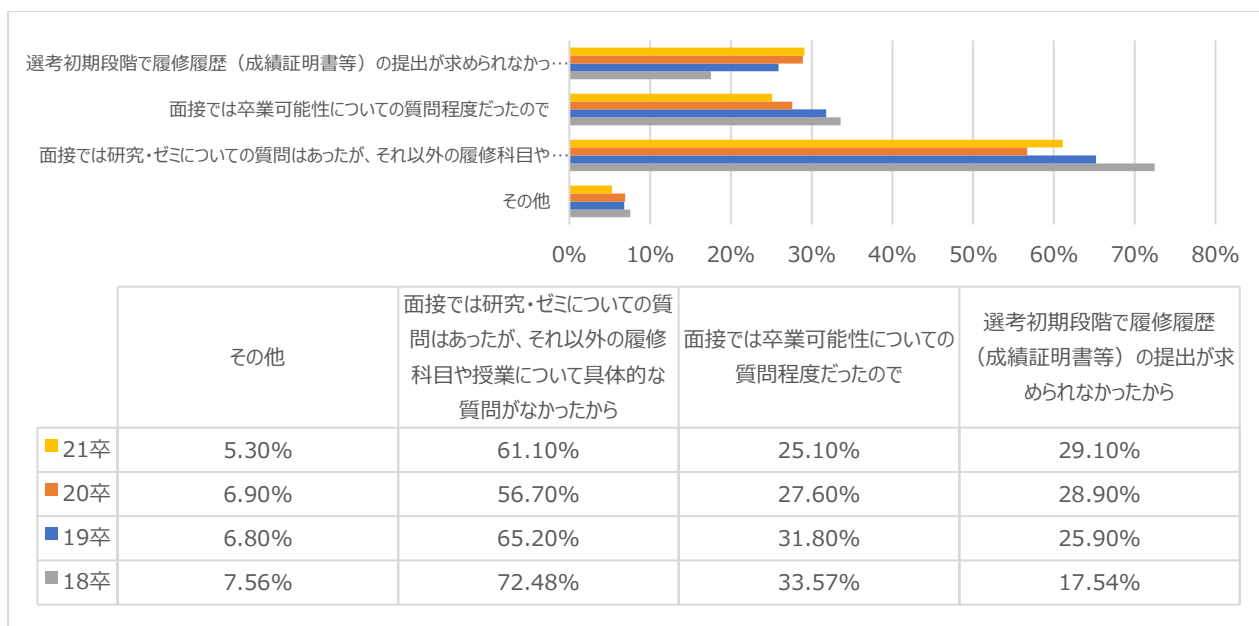
Q.【18卒～21卒】採用選考において、学業を重視していると感じた企業の割合を教えてください



Q.【18卒～21卒】学業を重視していると感じた理由を教えてください（複数回答可）



Q.【18卒～21卒】学業を重視していると感じなかった理由を教えてください（複数回答可）



学業について聞かれるのは「当たり前」と考える学生は昨年同様増加傾向に

「面接で、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いですか？」という質問をおこなった。

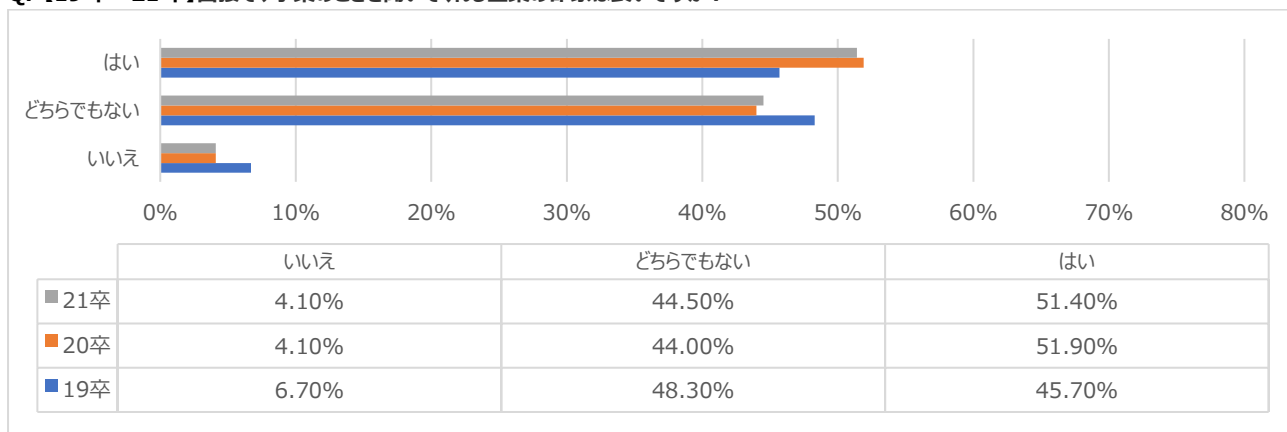
結果は昨年とほぼ同様で、「はい」が半数を超えている。

併せて、理由も「学業は学生の本分であるから」こそ、そこを問うことで印象が良いと感じる学生と、聞かれて当たり前なので特に良いとは感じない学生が散見されるのは昨年と変わらず。「聞かれて当たり前だと思っている」という回答は以前より増えてきている。

昨年の調査結果にも記載しているが、学業について問われることで「しっかりと学生について知ろうとしている印象を持った」という回答は今年も一定数あった。また、専門性の高い科目については、企業のもつ専門性とマッチするか、「きちんと見極めようとしている」という印象を持たれている。

反面、人間性などを「選択した科目などから判断してほしくない」という回答もあり、学生時代、何に一番力を入れてきたかによって回答はかなり分かれる結果となった。

Q. 【19卒～21卒】面接で、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いですか？



※この設問は 2018 年卒向け調査（2017 年実施）では実施せず

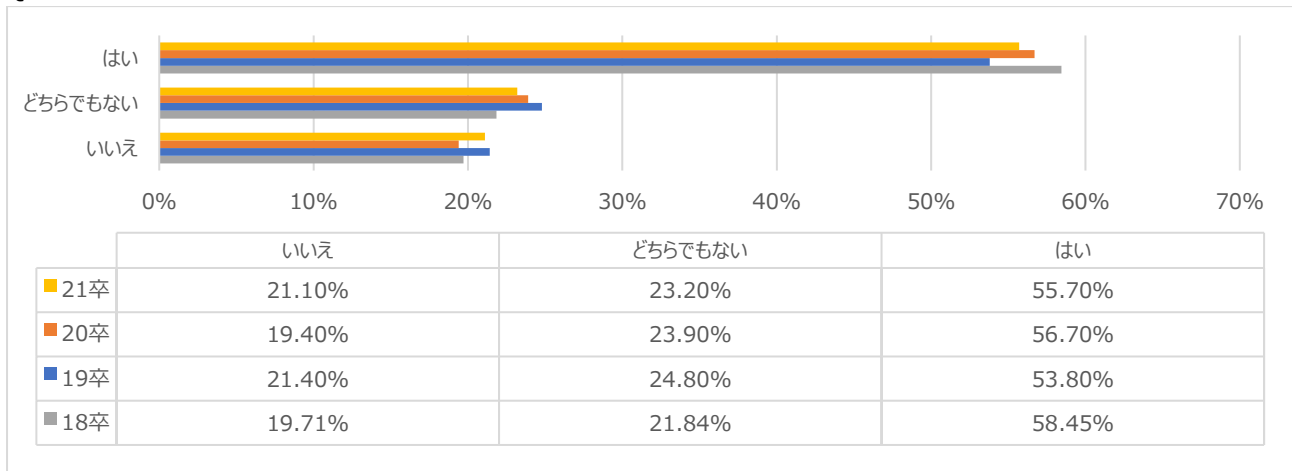
「就職のための学業」とならないか、という懸念

「企業が面接で、学業に関する質問を積極的にすると、学生の学業への向き合い方は変わると思いますか？」という質問には、過去3年と変わらず5割強の学生が「はい」と回答。

ただし、昨年に比べると「はい」が微減、「いいえ」が微増という結果になった。

回答の理由として「質問されると分かっていると、就職のための授業を取るようになり、それは大学本来の『学ぶ場所』から離れてしまうのでは」と挙げている人もいた。学生側としても「本分は学業」という大前提をどう捉えるかによって、この質問や前述の質問への回答がかなり分かれているように見受けられる。

Q. 【18卒～21卒】企業が面接で、学業に関する質問を積極的にすると、学生の学業への向き合い方は変わると思いますか？



「授業には8割以上出席していた」と回答した学生が85%を超える結果に

「授業にどの程度出席していたか」という質問で、「8割以上出席した」との回答が85%超となった。これは飛躍的に伸びた昨年の割合を更に加えたことになる。正直、この調査を始めた頃には想像し得なかった数字である。

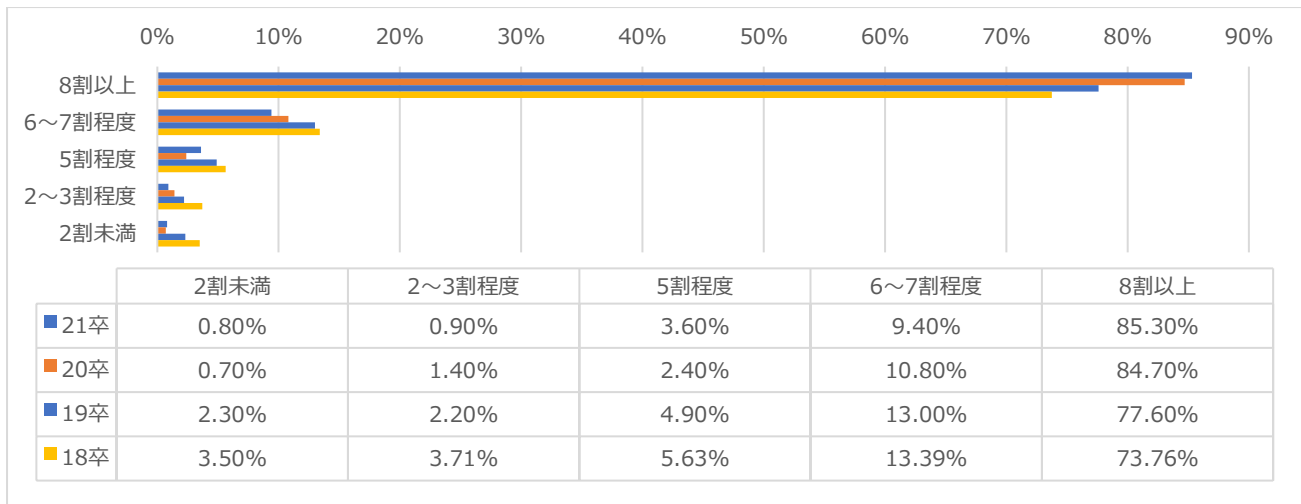
「学業にはどの程度力を入れて取り組んできたか」という質問では「100」と「80～90程度」の合計が昨年をわずかに下回っているが、それでも2019年卒と比較するとかなりの増加傾向にある。

「学業／部活やサークル／アルバイト／学外での活動」が、自身の学生生活の中でどのくらい重要か、を問う質問では、昨年に続き半数以上の学生が「学業が1位」と回答。「部活やサークル」「アルバイト」がわずかに増えているが、それでも半数の学生は学業重視の学生生活を送っている。

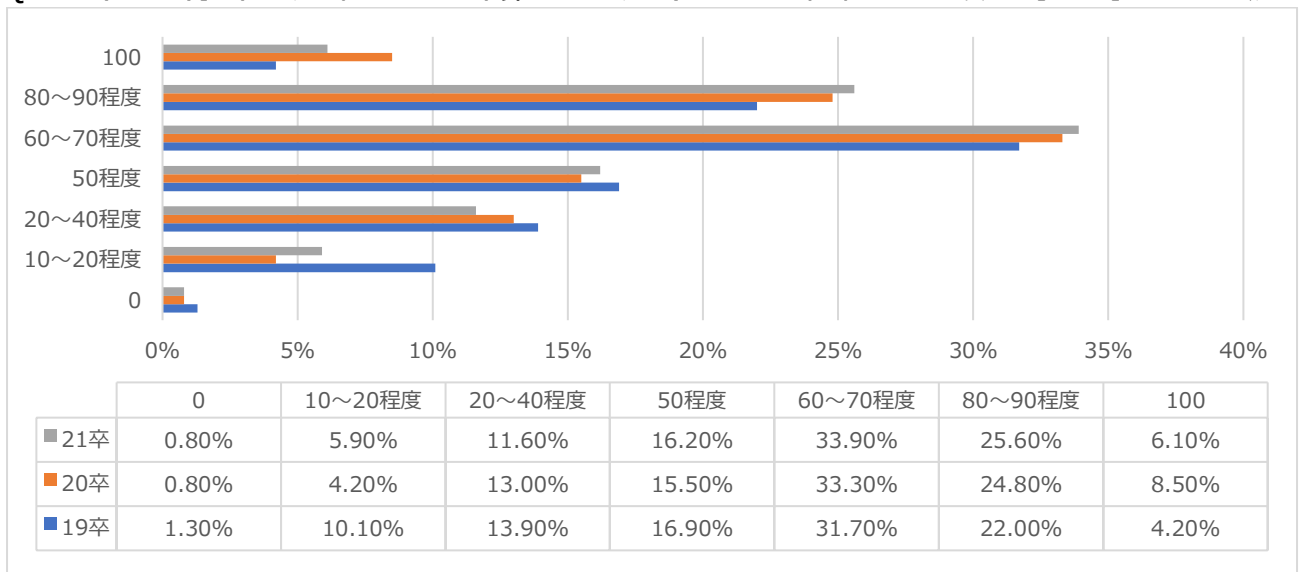
学業が大事だから授業にも出席するし、力を入れて取り組んでいる。

それがだんだんと「当たり前」になってきているのではないだろうか。

Q. 【18卒～21卒】授業にはどの程度出席していましたか

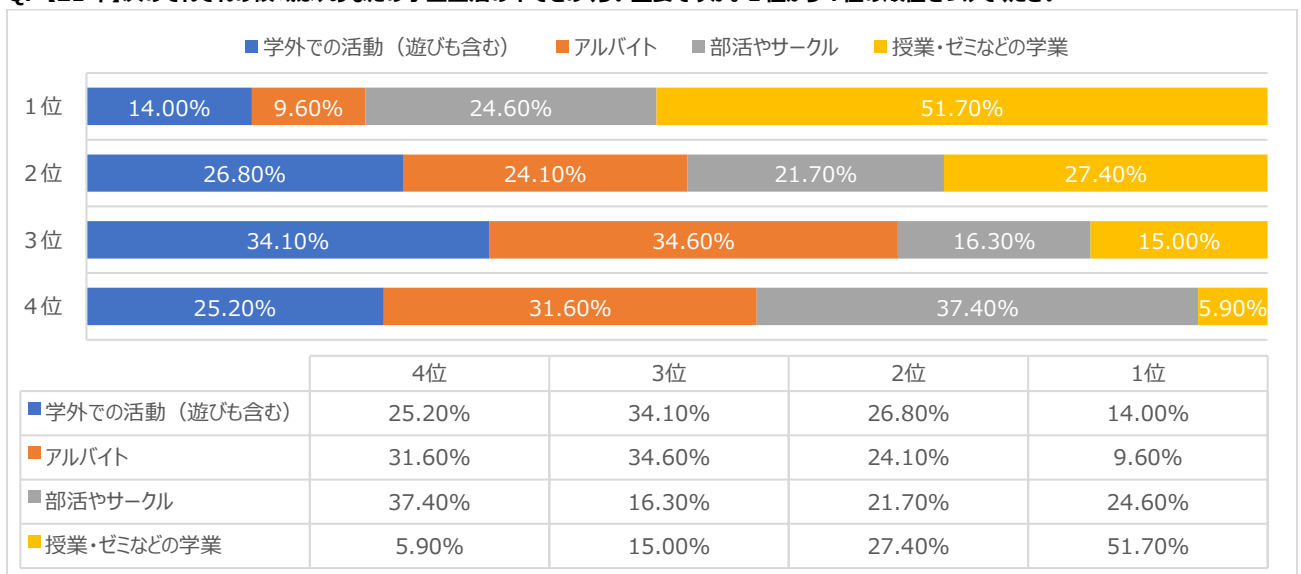


Q. 【19 卒～21 卒】学業には、どの程度力を入れて取り組んできましたか（ご自身の中で最大限の力の入れ具合を【100】としてご回答ください）

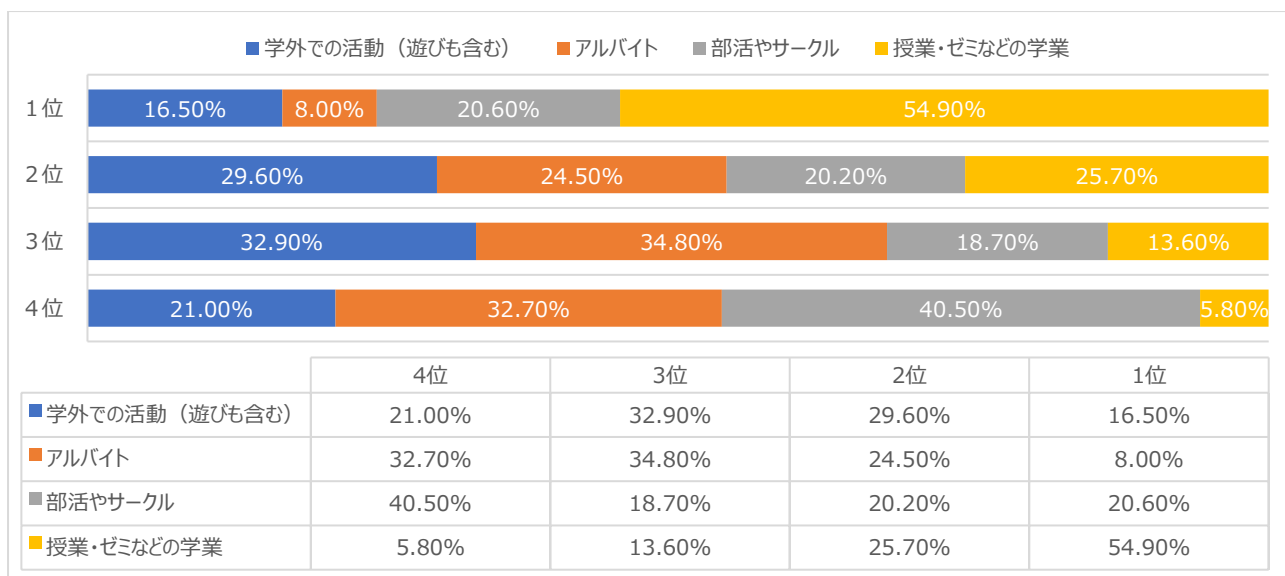


※この設問は 2018 年卒向け調査（2017 年実施）では実施せず

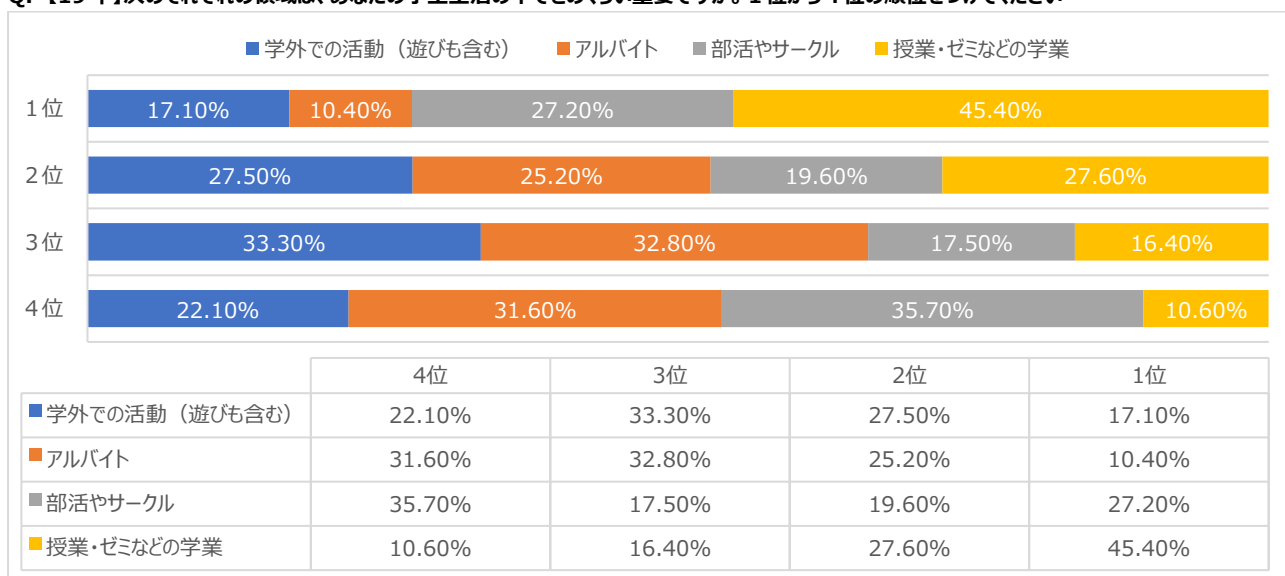
Q. 【21 卒】次のそれぞれの領域は、あなたの学生生活の中でどのくらい重要ですか。1 位から 4 位の順位をつけてください



Q. 【20 卒】次のそれぞれの領域は、あなたの学生生活の中でどのくらい重要ですか。1 位から 4 位の順位をつけてください



Q. 【19卒】次のそれぞれの領域は、あなたの学生生活の中でどのくらい重要ですか。1位から4位の順位をつけてください



※この設問は 2018 年卒向け調査（2017 年実施）では実施せず

就職活動は学校が休みの時期に行えるのが理想的

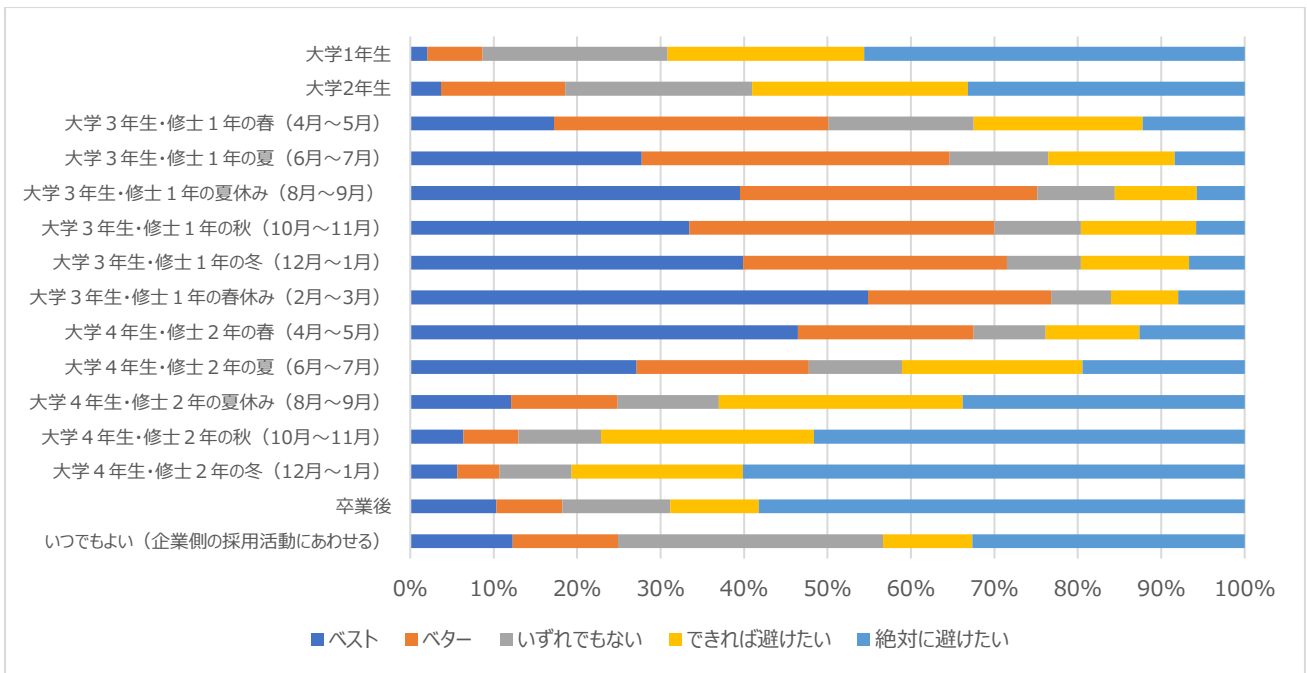
前年に続き、「ご自身が実現したい学業・学びのために、就職活動はいつごろおこなうのがいいか」という質問をおこなった。

20 卒も 21 卒も全体的にはほぼ変わらない結果であったが、「大学 3 年生・修士 1 年の秋」「大学 3 年生・修士 1 年の冬」を「ベスト」と選ぶ学生の割合が増えている。これは早期インターンシップ（秋開催）が学生側にも浸透してきていると見ることもできる。

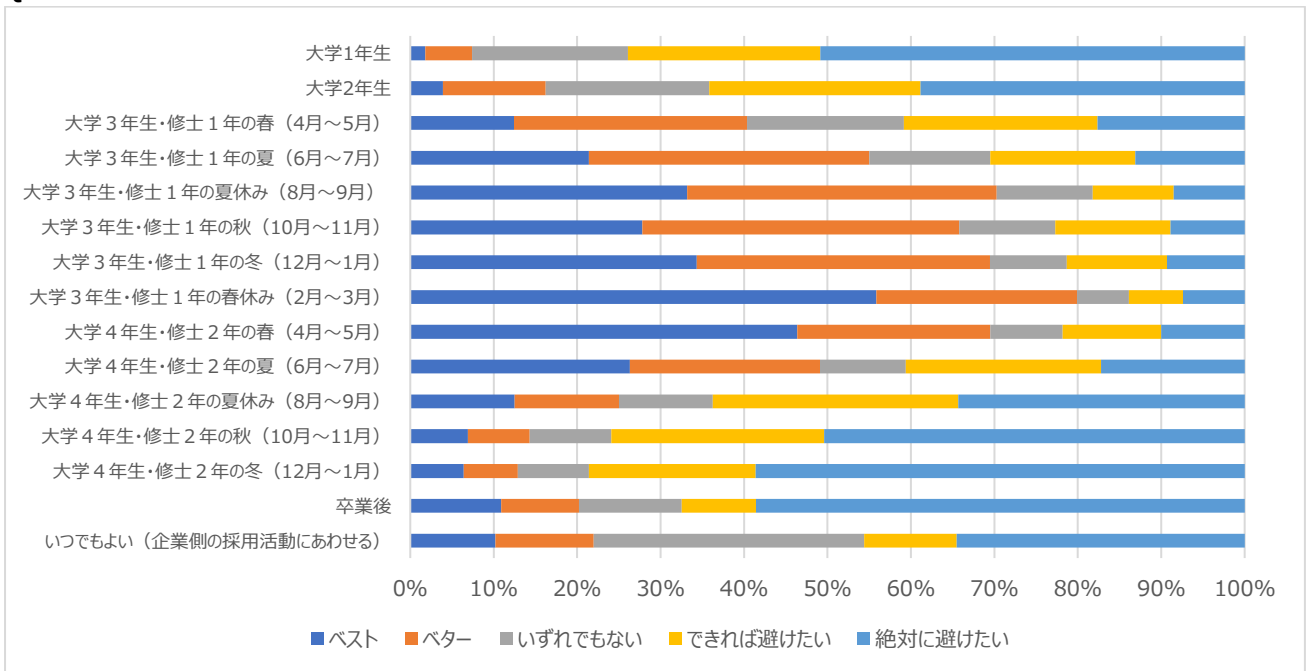
「学校が休みの時期に就職活動を行いたい」という気持ちはあるものの、その時期にインターンシップ、特に選考直結のものが開催されるのであればそこに参加するしかない、と考えているのかもしれない。

ここについては昨年同様、企業側の都合と学生の都合の折り合い、バランスを企業側も考えていく必要がある。

Q. 【21 卒】ご自身が実現したい学業・学びのために、就職活動はいつごろおこなうのがいいですか？



Q. [20卒]ご自身が実現したい学業・学びのために、就職活動はいつごろおこなうのがいいですか？



※この設問は 2018 年卒向け調査 (2017 年実施)、2019 年卒向け調査 (2018 年実施) では実施せず

文系学生も授業以外の「自習時間」が増え、より学業に力を入れる傾向に

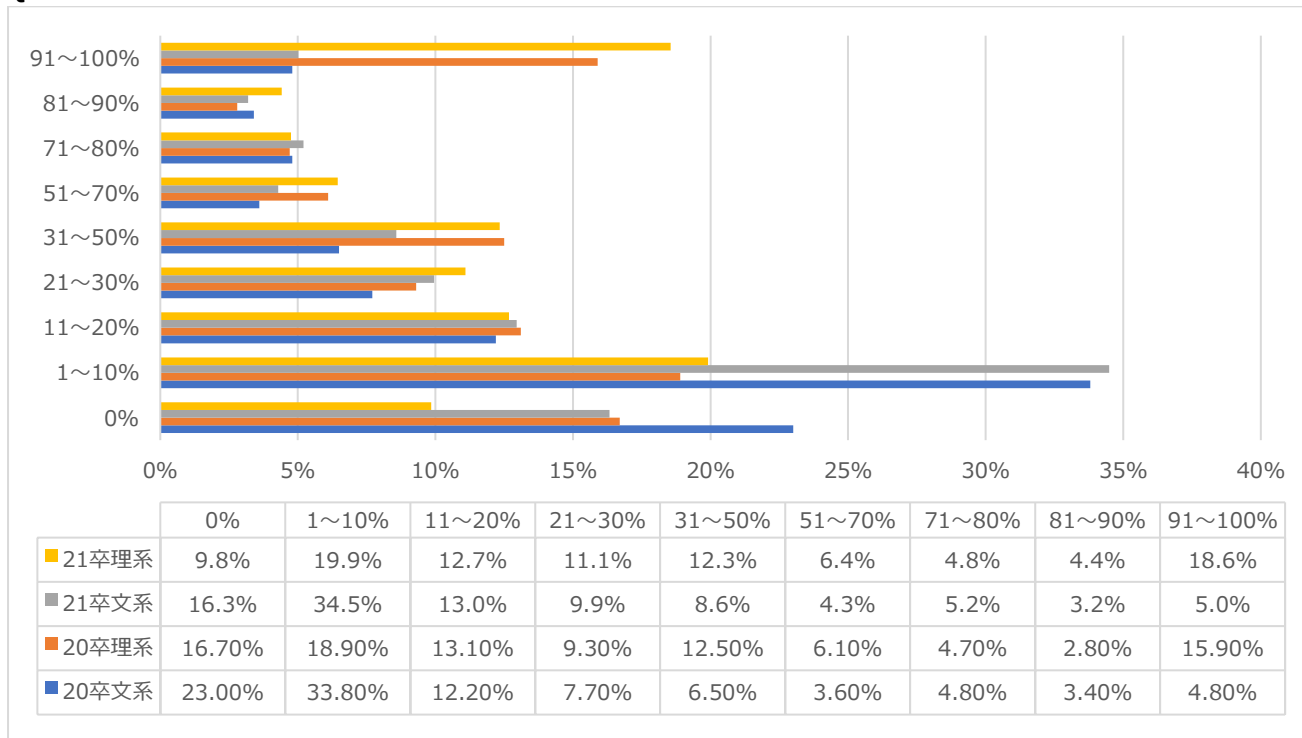
文系・理系に分けて集計をおこなってみたが、ほとんどの回答が昨年と変わらない傾向を示していた。

ただし、文系では「授業以外での自習時間」が昨年に比べて全体的に伸びている。

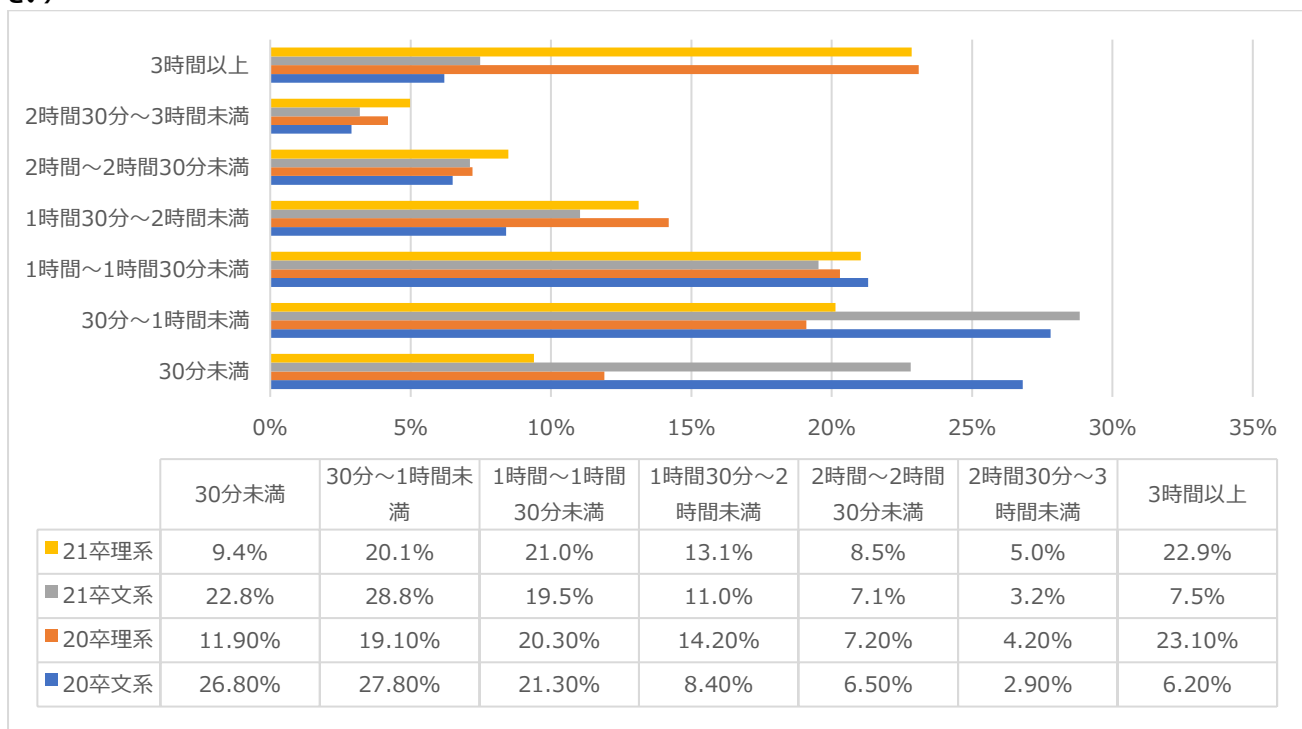
「選考時、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いか？」の質問についても「はい」と回答した割合が昨年より多い。

昨年の調査で理系は「選考で学び（学業）を問われることは当たり前のようにとらえているのではないか」としていたが、文系でもより学業に力を入れ、それを選考の中で評価してもらいたい、という傾向が増えてきているのかもしれない。

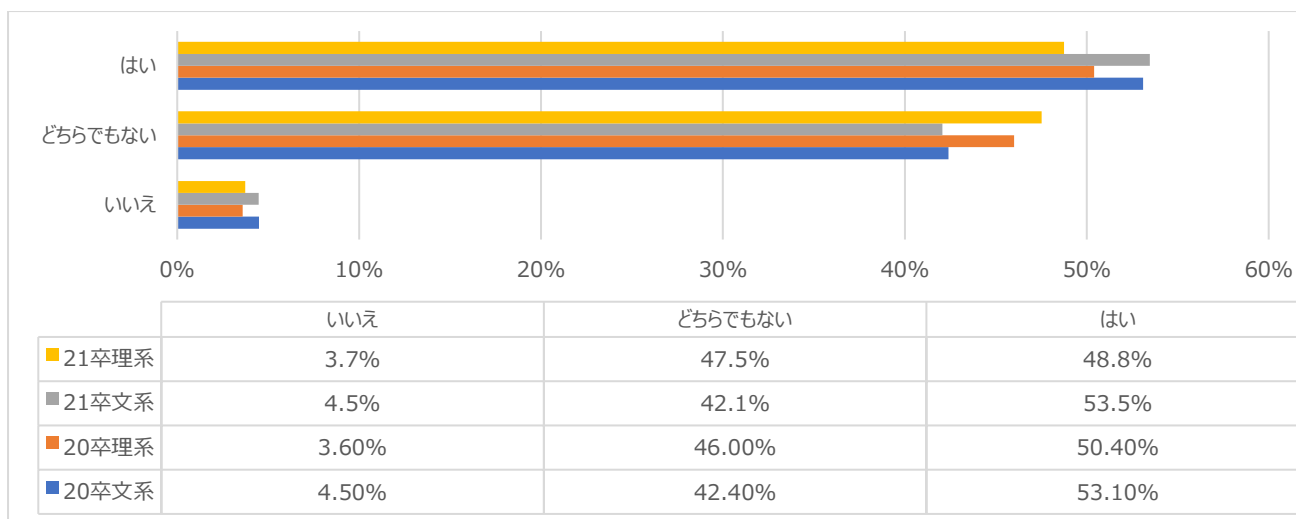
Q.[20~21 卒]応募時（本エントリー時）に、履修履歴の提出を求められた企業の割合を教えてください。



Q.[20~21 卒]授業以外での自習（予習や復習、研究など）について、一日の平均時間はどれくらいですか？（大学内外あわせて時間を教えてください）



Q.[20~21 卒]選考時、学業のことを聞いてくれる企業の印象は良いですか？



調査まとめ

学生の学業に対するウエイトの置き方は、過去 3 年の調査より更に重くなっている。

「大学は学びを深める場所」という意識が、今の大学生にとっては当然のものとして受け入れられているのだろう。

学業であろうと、課外活動やアルバイトであろうと、学生自身が「自分が一番力を入れたこと」を評価して選考してほしい、と望むのは当たり前だが、その中で学業に向き合っている学生の割合がこれだけ増えてきているのであれば、選考する側としても「学業への向き合い方」「成績」などをもっと積極的に評価しても良いのではないだろうか。

理系学生のみならず文系学生も学業に向き合う学生が増えてきた今、改めて「学生の本分を全うする」ことにスポットライトを当て、採用に繋がっていくことを切に願っている。

なお、本調査は、2022 年新卒採用の選考終了時期にも実施し、公表していく。

2021 年新卒採用における履修履歴活用実態調査・アンケート結果

本アンケート結果の全データは下記よりご覧いただけます。

◆アンケート結果（全体版）

<https://risyu-katsu.jp/wp-content/uploads/2020/09/2020enq202009all.pdf>

◆アンケート結果（文理別）

<https://risyu-katsu.jp/wp-content/uploads/2020/09/2020enq202009bunri.pdf>

◆アンケート結果／履修履歴の提出を、選考の早期段階で求めている企業名一覧

<https://risyu-katsu.jp/reports2021company/>

履修履歴活用コンソーシアムについて

2017 年 7 月 1 日設立の、全国各地域の就職・採用支援事業者で構成された団体です。2018 年 6 月 1 日より一般社団法人に移行いたしました。

<設立趣旨>（ホームページ <http://risyu-katsu.jp/found/> より抜粋）

【学生の「学び」と、卒業後の「働く」をつなぐ架け橋として】

日本の新卒採用シーンでは、「学生がどのような考えや価値観に基づいて学業に取り組んできたのか」ということ（＝履修履歴）に対して興味を持たれること

が、今までほとんどありませんでした。

それが結果として、「就活が始まると学生が授業に出なくなる」という現象につながり、「企業の採用活動は学業を阻害している」との批判を招く一因にもなっていました。

かかる状況を改善していくことを目的に、私たち就職・採用支援会社は共同で「履修履歴活用コンソーシアム」を設立いたしました。

本コンソーシアムのサービスや活動を通じて、学生の「学ぶ意欲」が醸成され、社会で活躍するための基礎的なチカラを蓄えた人材が、大学をはじめとするすべての高等教育機関から多数輩出される世の中になることを願っております。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

一般社団法人履修履歴活用コンソーシアム
運営事務局 事務局長（株式会社パフ）保坂光江
電話 03-5215-7807 FAX 03-5215-8222
e-mail info@risyu-katsu.jp